

2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、環境保全の実践に結びつくものとするため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。

2.1 環境学習の取組

(1) 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。環境に関する広範囲かつ専門的な知識を習得するため、基礎課程、実践課程を開講した。

各課程全10回。受講者:91人。修了者:80人。

開講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
8月29日	環境人材の育成をめざして －気候変動の水環境影響と適応策への対応－	埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一	77頁

閉講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
11月28日	おいしい水と環境保全	国立保健医療科学院 水道工学部長 秋葉道宏	83頁

基礎過程

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
10月10日	足元の地域から環境再生をめざす	東京経済大学 教授 除本理史	84頁
10月10日	大気環境 －大気汚染と地球環境問題について－	埼玉大学大学院 教授 坂本和彦	85頁
10月17日	水環境 －健全な水循環と里川の再生－	埼玉県環境科学国際センター 水環境担当部長 高橋基之	86頁
10月17日	さいたまの環境	埼玉県環境部環境政策課 主幹 葛西 聡	87頁
10月24日	環境法の立法と執行 －環境を創造する市民と法の役割－	東京経済大学 教授 磯野弥生	88頁
10月24日	気になる暮らしの化学物質	埼玉県環境科学国際センター 化学物質担当部長 細野繁雄	89頁
10月31日	野生生物の現状	埼玉大学 非常勤講師 巢瀬 司	90頁
10月31日	埼玉県の温暖化の実態とその影響 －温暖化の生物・農業・健康への影響－	埼玉県環境科学国際センター 自然環境担当主任研究員 嶋田知英	91頁
11月 7日	低炭素社会における廃棄物管理とリサイクル	日本工業大学 教授 佐藤茂夫	92頁
11月 7日	自然環境分野での日本の国際協力	(独)国際協力機構(JICA) 東京国際センター所長 草野孝久	93頁

実践過程(水曜日・土曜日コース)

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
9月 2日	環境学習の現状と課題／環境学習の今後の取り組み	立教大学大学院 教授 阿部 治	94頁
9月 5日			


開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
9月9日	地域で実践する里山保全活動	NPO法人むさしの里山研究会	95頁
9月12日	ー市民による里山の生物多様性保全の課題ー	理事長 新井 裕	
9月9日	市民・学校・行政とのコミュニケーション	NPO法人川口市民環境会議	96頁
9月12日		代表理事 浅羽理恵	
9月16日	環境学習から環境まちづくりへ	NPO法人エコ・コミュニケーションセンター	97頁
9月19日	学びと参加をつなげるコーディネーターの役割	代表 森 良	
9月23日	環境学習プログラムをデザインする	学びの広場	98頁
9月27日	環境学習プログラムをデザインする(演習)	代表 小川達己	
9月30日	生物多様性の保全について・生物調査法の実践	埼玉県生態系保護協会	99頁
10月3日		統括主任研究員 高野 徹	

(2)公開講座

その時々々の環境に関する話題などを扱った環境科学トピック講座、事業所環境セミナー及び彩の国環境大学修了生フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ	参加者
① 環境科学トピック講座 話題となっている環境問題を取り上げ実施している。	2月4日(木)	講演 「地域公共交通の計画と実践の考え方」	63人
② 事業所環境セミナー 事業所の環境教育担当者を対象に事業所における環境教育の推進を図るため開催している。	2月18日(木)	講義 「ESCO事業の紹介と埼玉県での取組について」	30人
③ 彩の国環境大学修了生フォローアップ講座 地域で環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学の修了者を対象に支援を行うため開催している。	1月30日(土)	講演 「地球温暖化の埼玉県への影響」 活動事例発表 「太陽光発電の現状と普及活動」 「持続可能なまちづくりー自らランドデザインを描くー」	57人
④ 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	5月2日(土) 5月3日(日) 7月11日(土) 7月18日(土) 8月1日(土) 8月8日(土) 12月19日(土)	ネイチャーゲームで遊ぼう 見てみよう生態園の自然 環境地図づくり教室 川の生物で環境調査をしよう 竹で工作しよう〜うぐいす笛〜 昆虫の標本を作ろう 実りのリースを作ろう	66人 133人 36人 41人 41人 54人 51人

昆虫の標本を作ろう

講座名	開催日	テーマ	参加者
⑤ 県民実験教室 簡易な化学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。  サイエンスショー「爆発実験」	5月 4日(月)	リサイクル工作「傘ぶくろロケット」	300人
	5月 5日(火)	サイエンスショー「爆発実験」	205人
	5月 6日(水)	リサイクル工作「飛ぶおもちゃ(カッ飛びパックとんぼ)」	168人
	6月14日(日)	廃油からリサイクル石けんを作ってみよう	49人
	7月19日(日)	自由研究のテーマを探してみませんか	72人
	7月20日(月)	大気の性質を調べてみよう	26人
	7月25日(土)	水の性質を調べてみよう	53人
	8月 2日(日)	身の周りの空気の汚れを調べてみよう	32人
	8月22日(土)	乾電池チェッカーを作ろう	86人
	9月27日(日)	身近な物の中の化学物質	22人
	10月25日(日)	音や振動のなぞを調べてみよう	19人
	11月14日(土)	サイエンスショー「空気ってチカラ持ち」	190人
	11月14日(土)	リサイクル工作「パックンワニさん」	167人
	12月13日(日)	タマネギで染めるしおりを作ろう	34人
	12月20日(日)	廃油からクリスマスキャンドルを作ろう	49人
1月24日(日)	科学実験「電気を作ろう、ためよう、使ってみよう」	48人	
2月14日(日)	草木染めをしてみよう	32人	

(3) 身近な環境観察局ネットワーク

身近な環境を調査することにより、環境問題への関心を高めることを目的に、県民、環境NGOや県内の中学、高校の科学クラブなどを身近な環境観察局としたネットワーク化を図っている。

観察局数:67局(平成22年3月31日現在)

(4) 研究施設公開

夏休み、県民の日などに研究施設の一般公開を行っている。

開催日	内容	参加者
5月 2日(土)	ゴールデンウィーク	87人
7月25日(土)	夏休み	26人
11月14日(土)	県民の日	49人

(5) その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
① ゴールデンウィーク特別企画	5月 2日(土)	・オリエンテーリングクイズ	参加者延 897人
	5月 6日(水)		
② 夏休み特別企画	7月18日(土)	・オリエンテーリングクイズ	参加者延 1,419人
	8月30日(日)		
③ 県民の日特別企画	11月14日(土)	・サイエンスショー「-196℃の世界」 ・アートバルーンに挑戦 ・オリエンテーリングクイズ	参加者延 623人

2.2 地域環境セミナー

地域環境セミナーは、県内地域の環境活動を支援するため、センターの職員が地域に出向いて行うもので、地域の自治体等と共催で、もしくは協力を得て実施するものである。

第4回目の今回は、第3回に引き続き、市民レベルの実行委員会組織により開催された「(第9回)環境まちづくりフォーラム埼玉」に参加する形で実施した。

開催日	場所	内容	参加者
3月13日(土)	川越市市民会館 やまぶき会館ほか	温暖化対策分科会講演「地球温暖化の影響と対策」 環境科学国際センター総長 須藤隆一 パネルディスカッション(パネラー 自然環境担当 増富祐司) ポスター展示(環境科学国際センターの紹介)	フォーラム参加者数 898人

(1)分科会講演「地球温暖化の影響と対策」

埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一

温暖化対策分科会において、須藤総長が以下の内容で講演を行った。

現在、地球温暖化による気候変動の加速化、深刻化は確実にその対策は「待ったなし」である。間近に迫った地球環境の危機に正面から対峙し、その解決を図らない限り人間社会の発展はあり得ない。そのためには持続可能な社会の構築が不可欠である。現実の社会を見ると持続可能な社会づくりは決して容易ではないが、健全で恵み豊かな環境を将来世代へ引き渡すためには、国内外の幅広い関係者の参加と共同の下、環境保全の気持ちを一つにして、一人ひとりの取組の輪を広げ、力強く推進することが求められる。



講演を行う須藤隆一 総長

(2)パネルディスカッション

温暖化防止分科会の中で、フォーラムの基調講演を行った小瀬博之東洋大学准教授を座長として、増富祐司研究員ほか5名の有識者をパネラーに招き、「25%削減に対し我々は何ができるか」というテーマでパネルディスカッションを行った。



温暖化防止部会(増富祐司研究員)



温暖化防止部会(パネルディスカッション)

2.3 騎西町との環境学習の取組

地元騎西町(現:加須市)とは以前から共催で様々な環境に対する取組を行ってきた。平成22年3月28日、騎西町が加須市と合併することとなったため、騎西町で唯一の中学校である騎西中学校での「3年生を送る会」に先立ち、当校の「環境活動に尽力し、環境学習の発展に大きく貢献した功績」に対し、須藤総長による表彰状の授与を行った。(3月8日)



表彰状の授与(騎西中学校)